



ふるさと秋田の元気を創る!

平成28年12月9日(金)

平成28年度 秋田県生涯学習・社会教育研究大会 (兼) 行動人交流集会

今年度の研究大会(兼)行動人交流集会が、213人の参加者により県生涯学習センターで開催されました。

午前は、文教大学学長の野島正也氏より、「地域で幸せになるために～『幸せ』は『仕合わせ』!?～」の題で基調講演が行われました。野島先生は、穏やかな語り口調でユーモアを交えながら、「弱いつながり」(Weak Tie)でかまわないので「地域縁」の広がりを持ち、地域に出ていくことが人間の幅を広げていくことを強調されました。「幸せ」は、元々「仕合わせ」(めぐりあわせ)が語源であり、地域の好縁を基礎に、人は他の人と一緒になって行動する事が大切であると講演を結びました。

昼食後、行動人の方々がブースを設け、活動の紹介があり、参加者と活発な交流が行われました。

午後からは、野島先生がコーディネーターを務め、3人の方から日頃の活動の紹介や、参加者を交えた活発な意見交換が行われ、大盛況の中で終了しました。



講演中の野島正也氏

事例研究の発表者	高校生まちづくり会議 「HACHI」の取組について 大館市中央公民館 主事 松田 亜里紗 氏	「ふるさとキャリア教育」の実践のため、市内の高校から応募してきた高校生で組織される「高校生まちづくり会議 HACHI」は、大館市の商店街の活性化や地域課題の解決につながる活動を考え実践し、地域の活力(元気)の創造を目指している。
	小学校におけるクラブ活動の支援について 由利本荘市社会教育委員 佐々木 由美子 氏	地元の岩城小学校で、絵手紙のクラブ活動を指導しているほか、岩城中学校では心の教育相談員として生徒の相談に当たっている。心の教育相談員としての活動充実のため、臨床発達心理士の取得を目指すなど、学んだ成果を生かして活動している。
	音楽イベント「おもしろフェス・おもしろす2016」の取組について おもしろす実行委員会 代表 小笠原 大輔 氏	地域の有志が集まって「何かおもしろいことやれないか」と平成27・28年と続けて野外の音楽コンサートを行っている。若者と地域の様々な業種の人が集まり、魅力ある「おもしろ町」雄物川を創りたいという思いで活動している。



野島先生の講演は、明確な現状分析を元に、地域で幸せに生きるためには、弱くてもいいので地域のつながりが必要であるという一貫した内容であり、理解しやすく、今後の人生を考える意味でも感銘を受けました。午後のパネリストのそれぞれ発表内容は、秋田を元気にするためのエネルギーで地道な活動に感激させられ、参加者のアンケートでも高評価でした。

「生涯学習・社会教育関係者実践講座」を振り返って

今年度の実践講座が好評のうちに、終了しました。県内7カ所を会場に、延べ322名の方々に参加していただきました。ご協力に感謝いたします。

今年度の成果と課題は、次のとおりです。

- 全7回の講座で、1回あたりの平均は46名で、昨年度の平均を5名上回った。
- 共催した市町村や学校の全面的な協力が得られ、会場設営や周知について特に問題はなかった。
- 前年度末に市町村との打ち合わせを行い、全体テーマに沿いながら市町村のニーズに応じて講座のテーマを設定した。
- 昨年度に引き続き、協議の最後に社会教育アドバイザーが助言・まとめをした。協議が話しっぱなしで終わることなく、講座の目的を達成する上でも効果的だった。
- 地域開催スタイルをとって2年目だが、開催地の市町村、参加者からともに好評を得ていることから、基本的には今後もこの形を踏襲したい。ただし、県で主催する他の研修と日程や内容を整理し、より効率的に多くの方が参加できるように検討を続けたい。
- 16市町村から参加者があったが、9市町村からは参加が得られなかった。特に、町村に参加者ゼロが多く、教育事務所とも連携して参加を奨励したい。
- 行政職員の割合が少ない傾向が感じられた。テーマによっては、行政職員を主な対象者に想定している場合もあるので、募集方法も工夫したい。



グループ協議の様子

何かと負の話題の多い秋田県でも、地域で地道に活動している方々が多いことを改めて感じました。各回とも「ふるさと秋田の元気を創る！」ために活発なグループ協議が行われ、豊かな実践に裏打ちされた貴重な意見が出されていました。秋田を元気にするためには、県民一人一人が秋田のもつ色々な豊かさに自信をもつことから始めたいと考えさせられました。

リレーコラム

～家族を笑顔にする10のヒント～

あきたのそこのちから!



わが家で話し合おう! プラス1

家族が笑顔になるために大切なことを、みんなで話し合ってみましょう。



どの年代の子どもでも家庭に最も望むことは、「家族のみんなが楽しく過ごすこと」という調査結果（『家庭教育手帳』文部科学省）があります。家族が笑顔で過ごすためには、家族であってある程度のルールが必要です。そのために、家族全員で保護者のイニシアチブの元で様々な点について、話し合ってみましょう。

- 〔例〕
- 子どもがゲームで遊ぶ時間は1日何時間まで？
 - 携帯電話の利用についての約束は？
 - 帰宅時間は何時まで？
 - 子ども部屋のルールは？
 - 地震等の災害で家族がばらばらになった時、集まる場所は？

上記の例を参考に、わが家独自の「プラス1」をつくりましょう！